

南会津・坪入山～高幽山～梵天岳

小沼 充範

■山行年月日:2021年5月3日～5日

■メンバー:小沼充範、増田寿代、斎藤美和子、石川貴大

■コースタイム:

3日 登山口 7:20～家向山 10:10～窓明山 12:10～坪入山南側 1680m 13:35

4日 テント場 7:00～坪入山 7:40～1538m 9:20～高幽山 11:10～梵天岳 12:50～高幽山 14:25～坪入山 17:15～テント場

5日 テント場 7:00～窓明山 8:00～家向山 9:00～登山口 10:30

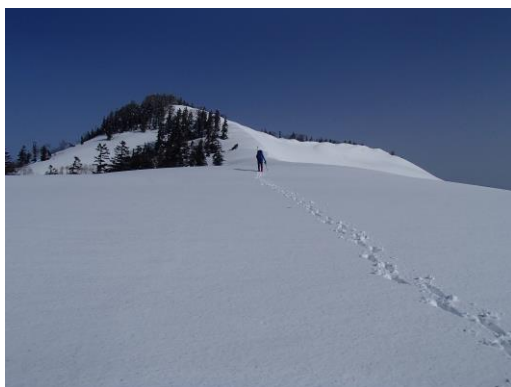
今年に入って雪が大量に降り、久しぶりに未丈ヶ岳から毛猛連山へ縦走しようとして計画を立てたが、3月以降急激に気温が上昇し雪解けが早くなった。毛猛連山は藪だろうと予想して計画を変更し、雪があると思われる坪入山をベースに空身で高幽山まで往復する計画をたてた。

5月3日。窓明山登山口 7時 20分 出発。

我々の他に男性 3 人パーティーが先行して行く。今日は冬型の天気では山は強風が吹き付ける。途中から雪が舞い始め、行動を止めてテントを張ろうかと考えた。巽沢山手前から雪の上を歩けるようになる。

10時 10分、家向山の肩を通過する。あいかわらず強風が吹き付け、5月連休とは思えない冬山のようなのである。気温が低く手袋を付ける。視界は良く、真白な窓明山の山容を見ることができる。登山口付近は極端に雪がないものの、標高 1400m 以上は例年の積雪量のように思われる。

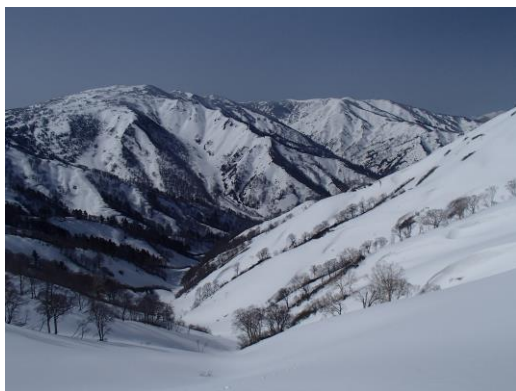
12時 10分、窓明山頂上着。山頂は東に大きな雪庇を発達させている。山頂を示す標柱は雪の下である。どんよりとした曇り空の下、遠くに未丈ヶ岳、越後三山が見える。男性 3 人のパーティーは日帰りのようであり、窓明山から往路を下りて行く。



坪入山



坪入山から西峰へのキレット



坪入のキレットから三岩岳方面を見る

窓明山から坪入山を目指す。窓明山頂北側は雪庇が崩壊し藪漕ぎとなるが、すぐに残雪の上を歩けるようになる。雪面にはアイゼンのトレースが付いている。天気は回復する様子はなく、あいかわらず雪が舞う。13時35分、坪入山南側標高1680m付近の針葉樹の中にテントを張り行動終了とする。テントの中で角瓶を飲みながら体を温める。天気は悪化し雷が鳴り出す。5月連休の山で雷に会うのは初めてである。

5月4日。昨日と違い、今日は青空が広がっている。昨日の雪で新雪が15cmほど積もっている。テント場7時出発。手袋がほしくなるほどの寒さで、周囲は時間が止まったような空間である。新雪の坪入山はデコレーションケーキのようである。

7時40分、坪入山頂上着。コメツガの生える山頂から、真白な高幽山、丸山岳を見渡すことができる。石川君は明日用事があるとのことで、坪入山頂上から引き返す。山頂から下るとキレットとなるが、新雪のためクラストはなく容易に通過することができる。

1754mピークの先へ行くと、針葉樹の



坪入山西峰から見る高幽山

中にテントが張っておりアイゼンのトレースがついている。トレースのパーティーはどうやら丸山岳を目指しているようだ。稜線から、至仏山、平ヶ岳、越後三山、未丈ヶ岳、毛猛連山を見渡すことができる。青空の下、展望を楽しみながらの残雪歩きとなる。

藪こぎをすることなく残雪歩きが続き9時20分、1538mピークを通過する。鞍部を隔てた、その先の稜線上に1頭のツキノワグマを見かける。クマは黒谷川方面へ歩いていくが、途中で引き返し袖沢方面へ戻って行った。大竹尚子さんは以前、この鞍部でクマの足跡を見かけており、この鞍部はクマの通り道のようなのである。黒谷川方面を眺めると、大内木山、恵羅窪山はほとんど雪がなく新緑が芽生えている。

雪面の登りを終えると稜線は平坦になり、目の前に高幽山の頂上が見えてくる。11時10分、高幽山頂上着。これで4度目の山頂である。村杉岳から猿倉山にかけての稜線が見え、猿倉山周辺は雪がほとんど落ちている。西には奥只見湖が見える。しばし、見飽きることのない展望を楽しむ。斎藤美和子さんの許可を

もらい梵天岳まで足をのばすことにする。

高幽山から梵天岳にかけては広い雪面の稜線となる。無雪期は大きな湿原が広がる所だ。周囲の展望を楽しみながら進むと、アイゼンのトレースを付けていた2人パーティーとすれ違う。やはり丸山岳まで行ってきたとのこと。山頂に2人パーティー以外のトレースはなかったとのこと。5月連休の丸山岳山頂を独占できて羨ましいかぎりである。

梵天岳山頂 12時50分着。1765m地点の西にある小高いピークで休憩する。静かな山頂から奥只見湖、毛猛連山、村杉岳～猿倉山の稜線を見渡す。大きな丸山岳が北沢を挟んで目の前に見える。丸山岳に行きたいという気持ちになるが、あまりにも帰りが遅いと美和子さんが心配するので梵天岳から引き返す。13時10分、下山開始。

丸山岳から坪入山の間は登山者が少なく静かであり、藪漕ぎがなく、たっぷり雪があり、展望を十分に楽しめる気持ちの良い稜線である。高幽山を過ぎた辺りから、南側に袖沢の御神楽沢、ミノコクリ沢流域を見下ろすことができる。ミノコクリ沢左岸の林道もはっきり見え、このとき今年10月、中門沢へ行くとは予想もしていなかった。

丸山岳登頂を果たした2人はテントで休んでいた。2人にあいさつし、

キレットを下り登り返す。テント場、17時15分着。青空の下、長い距離を歩いたので喉が渇いており、冷えた缶ビールがとてもおいしかった。

5月5日。テントを撤収し、7時出発。出発する頃、昨日会った2人のパーティーが追い越して行く。女性の顔は笑顔に満ちていた。おそらく丸山岳初登頂なのかもしれない。自分も丸山岳山頂へ9回登っているが、最初の初登頂はとても嬉しかったものである。今日は天気が下り坂で、雲が広がっている。8時、窓明山頂上着。9時、家向山を通過し、下って行くと小雨が降り出す。登山口10時30分着。5月連休、天気に恵まれたのは昨日の一日だけであった。

地球温暖化なのか、昨今の5月連休の山は雪が少なく、計画がたてづらくなっている。久しぶりに高幽山、梵天岳の山頂へ立てたのはとても良かった。機会があれば10回目の丸山岳山頂も果たしたいものである。



梵天から見る丸山岳